# 第１章　調査概要

## １．調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される生活系（可燃）ごみ、事業所などから排出される事業系（可燃）ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

## ２．調査実施内容

①　家庭系（可燃）ごみ

【実施日】　平成 29 年 2 月 20 日（月）
【調査場所】　弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
【季節】　春・夏・秋・冬
【試料採取地域】　和徳学区（宮川 3 丁目）
【集積所の形態】　ステーション方式（町会等）、ステーション方式（集合住宅）、毎戸方式
【備考】　ポリバケツ、集積ボックス、防鳥ネット、三方コンクリート
【可燃収集曜日】　月曜・木曜
【想定条件】　住居地域
【採取量】　202.7kg（集積所４か所分）
【気温（平均）】　－1.0℃
【収集時間】　12 分

②　家庭系（その他の紙）

【実施日】　平成 29 年 2 月 6 日（月）
【調査場所】　弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
【季節】　春・夏・秋・冬
【想定条件】　住居地域
【採取量】　246.7kg
【気温（平均）】　1.1℃

## ３．調査手順

（１）試料の回収

①　家庭系（可燃）ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

②　家庭系（その他の紙）

中間処理施設へ持ち込まれたごみを施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

（２）分類及び重量の記録

搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

# 第２章　調査結果

①　家庭系（可燃）ごみ

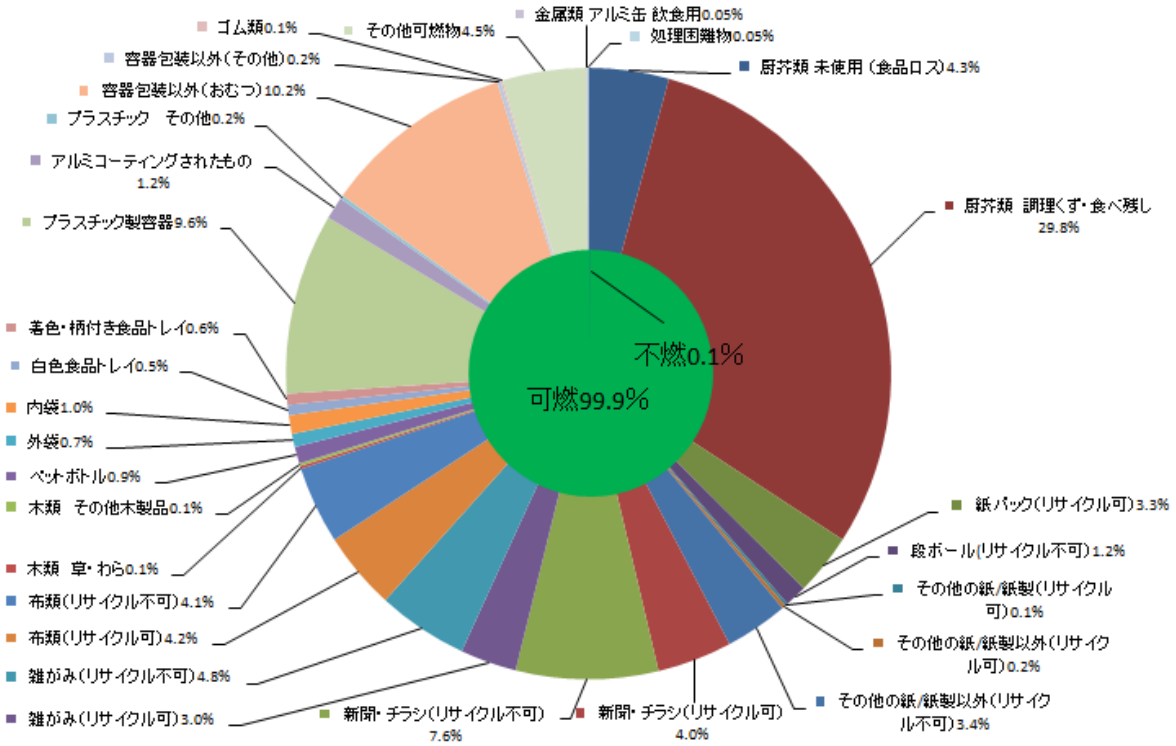
今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類（生ごみ）」（34.1%）、「紙類」（27.6%）、「プラスチック類」（25.1%）の 3 種であり、全体の約 86.8%を占めていた。

個別に見ると、厨芥類（生ごみ）「調理くず・食べ残し」（29.8%）、容器包装以外「おむつ」（10.2%）の割合が高かった。

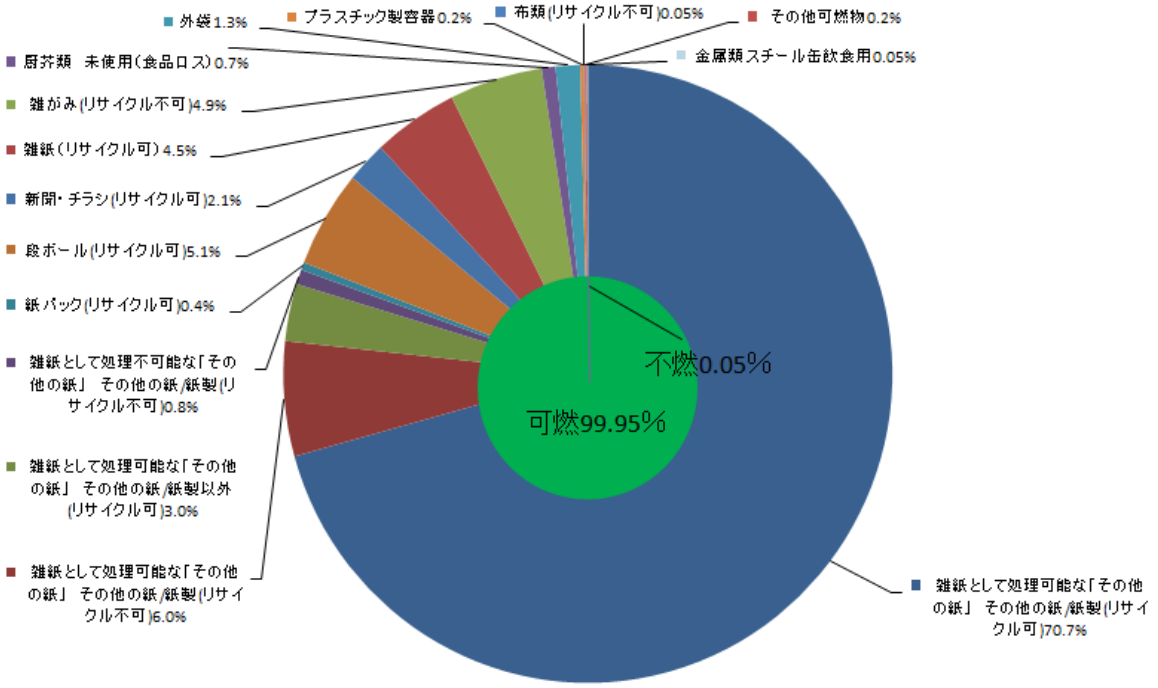
傾向としては、平成 27 年度実施分（計 7 回）と比較して、「厨芥類全体（平成 27 年度平均 45.2%）」の割合が低く、「紙類全体（平成 27 年度平均 26.3%）」、「プラスチック類（平成 27 年度平均 16.3%）」、「布類（平成 27 年度平均 3.1%）」の割合が高くなっていた。

今回の回収では、紙類の割合が高く、その中でもリサイクル可能な「紙パック」・「その他の紙」・「新聞・チラシ」・「雑がみ」の割合が 10.3%となっていたため、適正な分別・排出をするよう周知が必要である。



② 家庭系（その他の紙）

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

割合が高かったものは、「その他の紙（紙製・リサイクル可）」（70.7%）の１種で、全体の70.7%を占めていた。

前回の結果と比べると、「その他の紙（紙製・リサイクル可）」（11 月実施 64.1%）の割合が高く、その他の紙として排出できない部分（11 月実施 30.5%）は 20.3%と低くなっていたが、ダンボール（11 月実施 3.2%）や生ごみ、包丁の混入等、不適切な排出も目立った。